

■ゾーラン市長の就任は社会主義の大義を前進させることができる

ニック・フレンチ

[ゾーラン・マムダニ市長とその背後にある運動は、「手頃な価格」を実現するという目玉の公約を超えて、政治への大衆参加を拡大し、経済生活を民主化する改革を推進する機会を有している。](#)

左派の多くが1年前には夢物語と感じていたことが現実となりつつある:民主社会主義者ゾーラン・マムダニがニューヨーク市長に就任する。

それは簡単な仕事ではないだろう。市長が手頃な価格政策を実行する上で直面する政治的・財政的課題は数多い。普遍的な保育や無料バスなどの公約プログラムに資金を提供するために増税を行うには、ゾーランは、増税に反対を表明している(ただし、この問題に関しては最近軟化している)キャシー・ホッフル州知事だけでなく、オールバニの州議会の支持も必要となるだろう。彼は、退任するエリック・アダムズ市長によって生み出された[予算の制約](#)に対処しなければならない。

彼は、政界やニューヨークの経済エリートたちからの激しい反対に対処しなければならないだろう。そして、ドナルド・トランプを魅了するという[成功](#)を収めたように見えるにもかかわらず、大統領が以前の敵対的な姿勢に戻り、連邦政府の資金援助の削減や抑圧的な警察の行動を通じてマムダニ氏を弱体化させようとする可能性、むしろその可能性が高い。

これらの障害を克服して効果的に統治し、彼の政策、あるいはその大部分を可決することは、それ自体が非常に困難な課題となるだろう。そして、ゾーランが選挙公約を確実に実行することは、進歩的な経済政策と社会主義運動に対する[大衆の支持](#)を構築するために極めて重要だ。したがって、その政策を成立させることは、マムダニ政権だけでなく、より広範な左翼にとっても優先課題であるべきだ。

▶大衆の力を構築する

とはいえ、社会主義者がゾーランの再分配政策に過度に焦点を当てることは、それがどれほど変革的なものであっても、誤りである。第一に、これらの政策を成立させ、反撃から守り、短期的・長期的にマムダニとその運動への支持を構築・維持するためには、左派が広範な一般市民を組織化し活性化させる必要がある。選挙期間外に人々を大規模に組織化・動員することで、ゾーランとその支持者は政治的対立勢力に圧力をかけ、敵対的な[メディアの物語](#)やエリート主導の経済的混乱の可能性から公衆を保護するのに役立つ。

幸い、ニューヨーク市の左派はこの教訓を深く心に刻んでいる。民主社会主義者協会ニューヨーク支部(NYC-DSA)は、マムダニの政策を支持し市長と「[共同統治](#)」する方法を積極的に戦略化している。また、

ゾーランがオールバニで提案する増税案への圧力を高めるため「[富裕層への課税](#)」キャンペーンを開始した。またゾーラン市長選運動から生まれた組織 [Our Time](#) は、運動ボランティアの活動を継続させ、生活費対策アジェンダ支援へ動員しようとしている。

しかしゾーランの公約実現だけが政治への市民参加を重視する理由ではなく、その参加形態の構想も立法府への戸別訪問運動に限定されるべきではない。「民主的社会主義の本質は」とガブリエル・ヘットランドとバスカー・スンカラが[最近記したように](#)、

「大衆闘争を通じて労働者階級の力を構築するプロジェクトである。それは即時の改革を勝ち取ると同時に、資本主義を超えた社会の基盤を築くためだ。再分配と公共サービスによる生活水準の向上だけでなく、労働者が自らの生活を形作る決定を共同で形成する能力を高めることを目指す。」

その実現のため、ゾーラン市長はニューヨーク市全域で、地域や区レベルの大衆集会創設を主導すべきだと彼らは主張する。そこでは一般市民が集い、市長の統治方針形成に資する審議と意思決定を行う。こうした集会は労働者階級に都市の未来を共同決定する力を与え、ゾーランの構想への支持を喚起すると同時に、社会生活のより多くの領域へ民主主義を拡大する可能性を秘めている。

▶現場の力

歴史的に、社会主義者は労働運動における基盤構築を極めて重要視してきた。労働者がポスト資本主義社会の確立に強い関心を持ち、生産現場における労働者の立場が経済に対する集団的[構造的権力](#)を与えるためである。ニューヨーク市およびその先における社会主義的未来の構築には、大規模で闘争的かつ民主的な労働運動の支持が不可欠だろう。そのため社会主義者は、[ランク・アンド・ファイル・プロジェクト](#)、[緊急職場組織化委員会](#)、DSA の[労働者による労働者組織化](#)プログラムといった組織を通じて、労働運動への参加・構築・活性化を試みている。

しかし米国の労働組合は数十年にわたり衰退を続け、組合組織率は現在約 10% である。

ニューヨークでは、労働者の 20% 近くが組合に所属しており、状況は若干改善している。しかし、ニューヨーク市でも組合の組織率は[低下しており](#)、組合は新たな組織化や良好な契約のための闘争に関してはおおむね自己満足に陥っている。（この自己満足は、民主党予備選挙でほとんどの組合がアンドルー・クオモ氏を支持したことに反映されていた。）しかし、マムダニ市長は、ニューヨーク市の[労働力の強化](#)を支援する多くの機会を得るだろう。

その中には、労働者に団結権について教育し、組合結成運動や契約交渉を支援するために彼の影響力ある立場を利用すること（彼が最近行ったように、ニューヨークの看護師の契約要求を[支持し](#)、スターバックスの労働者の[ピケライン](#)に参加すること）、アマゾン社の配送ドライバーの組合結成を容易にする新しい市議会の[法案](#)を支持すること、労働者保護の実施を担当する既存の市機関を強化・拡大することが含まれる。

しかし労働運動学者エリック・ブランが指摘するように、労働運動強化における戦いは親組合政策だけでは不十分だ。もう一つの重大な課題は、組合指導部が概してリスク回避的で「無気力」であることである。ブランは「契約交渉や組合結成運動においてママダニ政権が組合幹部と緊密に連携することは重要だが、怠惰な組織の許可を待たない組織化を、自らの影響力と政策で躊躇なく後押しすべきだ」と記す。

つまりママダニ市長は、組合幹部の支持を得られない場合や反対に直面する場合でも、一般組合員の組織化や契約交渉を支援し強化する機会を常に模索できるのだ。

▶今こそ行動の時

ゾーラン市長の任期中に、無料保育のような待望の変革的再分配政策が導入されることを期待したい。しかし社会主義者はそれ以上の成果を望み得るし、望むべきだ。生活費負担軽減のための大衆運動を構築し、一般市民が市行政に実質的に参加できる場を創出し、現場労働者に力を与えることで、ママダニ政権は経済生活のより広範な民主化への道筋を示すことができる。

こうした取り組みは、社会の生産資産をより多く公的・労働者管理下に置き、資本の経済的・政治的権力を弱体化させる、より野心的な政策イニシアチブを支えることにもつながる。ママダニと州議会の同盟者は[公的銀行](#)創設を支援し、市の預金をそこへ移管することで巨額の財政節約を実現できる。ゾーランは協同組合・公営企業や社会住宅の整備を支援し、富裕層への[財政依存](#)を減らせる。公営住宅増設や市営食料品店の試験導入計画は、この方向への一歩だ。

左派の一部は、ママダニがイスラエル問題でより強いレトリックを採用しなかったことや、左派の一部は、ママダニ氏の失敗や裏切りを[批判する動き](#)を活発化させている。例えば、イスラエル問題でより強硬なレトリックを取らなかったことや、ニューヨーク市警との勝ち目のない対決を避けるためジェシカ・ティッシュ氏を警察長官に留任させるなど、中道派への戦術的な現実主義的譲歩を行ったことなどが挙げられる。我々の批判的エネルギーは、象徴的な問題や戦術的決定の事後批判に費やすより、政権が労働者階級のために針を動かす（状況を変える）ための包括的評価を試み、その針を動かす力を構築するプロジェクトに参加することに注ぐべきだ。

しかしそれは単なる「手頃な価格化政策」の実施問題ではない。ママダニ政権が労働者階級の力を構築し民主主義を拡大できるか、その方法も問うべきだ。もしそれが成功すれば、それは単なる「手頃な価格化」や進歩的ガバナンスの勝利にとどまらない。それは市内・国内・世界中の一般市民に対し、より公正で民主的なより良い世界が可能であり、民主的社会主義がその世界を実現するビジョンであることを示すことになるのだ。

■マムダニ市長の1年目が今始まる

インタビュアー:ダニエル・デンバー

[スマヤ・アウド](#)

[ネイサン・ガスドルフ](#)

[スマティ・クマール](#)

ゾーラン・マムダニ氏が本日、ニューヨーク市長に就任しました。左派にとって、今こそ、ニューヨーク市や国全体、そして世界へと広がる社会主義運動を築く、またとない機会です。

本日、ゾーラン・マムダニ氏がニューヨーク市長に就任します。今、ニューヨークだけでなく、世界中の社会主義運動の力を高める、またとないチャンスが懸かっています。(スポンサー・プラット/ゲッティイメージズ)

10年にわたる権力争いを経て、今日、ゾーラン・マムダニ氏がニューヨーク市長に就任し、アメリカの社会主義プロジェクトにとって重要な新たな章が始まりました。

[ジャコビンのポッドキャスト](#)「ザ・ディグ」で、ダニエル・デンバーは作家で活動家のスマヤ・アウド、ニューヨーク州テナントブロックのマネージングディレクターのスマシー・クマール、財政政策研究所のエグゼクティブディレクターのネイサン・ガスドルフにインタビューし、マムダニ政権にとって世界資本の拠点であるニューヨーク市を統治することが何を意味するかについて語った。

... ..

▼ダニエル・デンバー

まず、組織化された社会主義者とゾーラン政権の関係をどのように概念化するかについて議論しましょう。ここで私たちが試みているのは、全般的な正統性危機の中で台頭する権威主義的ファシズムに直面しながら、既成民主党に対抗しつつも、時には必然的に共闘しながら、覇権的な社会主義プロジェクトを推進することだということを、改めて認識しておく価値があると思います。

今、多くのことが起こっています。だからといって批判がいけないわけではありません。むしろ必要です。しかし、それはより大きなプロジェクトのために提示されるべきです。スマヤさん、マムダニ政権とニューヨーク市アメリカ民主社会主義者(NYC-DSA)の関係について、私たちはどのようなモデルや概念を考えるべきでしょうか？

▼スマヤ・アウド

左派は、そしてこれは常にそうだったように、私たちが見たい現実と現実を混同しがちです。これはまさにその好例です。ゾーラン氏は市長に選出され、間もなく市長に就任します。彼は社会主義者です。彼は

私たちの運動、ニューヨーク市社会保障局(DSA)の出身です。彼は様々な組織、そして多くの無組織を含む 10 万人以上のボランティアによって選出されました。

だからといって、彼に何でもできる権限があるわけではありません。実際、彼が参入しようとしている領域、そして体制側の多くが彼に積極的に反対し、他の都市や左派への見せしめにしようとしているという事実によって、彼の権限は非常に限られています。私がこう言うのは、「どうやって彼に責任を取らせるのか」という単純な問いではなく、彼に投票した 100 万人以上の人々、そして彼が今や代表し、戦う必要があり、そして戦うと約束した 800 万人の人々と共に考える必要があるからです。

彼選出を支援した私たちは、彼に投票した 100 万人以上の有権者、つまりその人々に責任を負っています。彼が立候補し、私たちは「家賃凍結を実現します。バスを高速かつ無料で運行します。すべての人に保育サービスを提供します」という綱領を掲げて戸別訪問を行っていたからです。そして、それこそが私たちが実現すべきことなのです。

そう考えると、私たちが訪問した人々に対する責任は、まさに私たちにあります。ニューヨーク市民一人ひとりに対する責任は、手頃な価格の住宅供給という課題を実現し、ゾーラン氏が掲げた一貫性のある政治を示すことです。集団統治と呼ぶにせよ、共同統治と呼ぶにせよ、私たちがそれを達成できるということを実際に証明することです。

正直なところ、その言葉自体がそれほど重要だとは思っていません。重要なのは、この次の段階、特に最初の段階で、有権者やニューヨーク市民に約束したことをいかに実現し、その覚悟があることを示すかということです。実現できると思いますが、実際には圧力をかけられるかどうか重要です。

私たちはゾーラン氏に圧力をかけることしか考えていないようです。しかし、実際には、ゾーラン氏とこの新政権が私たち皆で立てた約束を果たせるよう、いかにして体制側、キャシー・ホークル氏をはじめとする体制側に圧力をかけるかが重要なのです。

▼スマティ・クマール

全く同感です。今こそ、私たちの運動において、選出された公職者とどのように協力していくかについて、新たな方向性を見出す必要があるのです。

私たちは一般的に二つの陣営に分かれるようです。一つは、いわば永遠の反対派です。誰かが公職に就くとすぐに、私たちはその人を厳しく追及します。責任を負わせるのです。彼らは標的であり、敵なのです。そしてもう一つは、私たちが「共同統治」と言うとき、まるで非営利団体の事務局長が一室で公職者と話しているような感じがすることがあると思います。しかし、その関係の基盤は、権力よりも個人的なつながりにあるのです。

成功する政権を築くためには、それ以上のことをしなければなりません。マムダニ市長は 800 万人の住民を代表しなければなりません。運動の指導者数人との個人的な繋がりだけでは不十分です。私たちはそれ以上のことをしなければなりません。

ですから、この問題を考える際には、もっと大衆統治の枠組みを取り入れるべきだと思います。つまり、何十万人もの人々がこの政権の成功と失敗を共有すべきだということです。私たちがこの選挙戦で、10万人もの人々が戸別訪問を行い、まるで自分たちの勝利のように感じて勝利したように。

今後4年から8年にかけて、何千人もの人々が市長と共に政策を実行していると感じられるよう、この取り組みを継続していく必要があると思います。彼らはバスを高速かつ無料で運行し、家賃を凍結し、誰もが保育サービスを受けられるようにしています。何千人もの人々が自分たちもその一部であると感じれば、右派、連邦政府、穏健派民主党からの攻撃に対抗できるでしょう。そして、まさにそれが、ニューヨーク市社会主義者委員会(SIO)を通して私たちが実現してきたことです。

議会では、議員がニューヨーク市DSAのメンバーと協力し、共通の目標を達成するというプロジェクトを通して、まさにその取り組みを始めています。しかし、これはDSAのリーダーだけが選出議員と意思決定を行うということではありません。誰もが役割を持ち、共通の課題の実現に寄与するということです。ですから、戸別訪問をして近所の人に「議員に電話して、富裕層に課税するように伝えてください」と呼びかける新メンバーであれ、同僚議員にこれらの法案にどのように取り組むべきかを話し合う州上院議員であれ、誰もが同じプロジェクトの一員なのです。今、私たちはこの立法プロジェクトを、行政と830万人の人々のために機能するものへと発展させる必要があります。

そのために私たちが行っているのは、こうした大規模なキャンペーンを継続することです。しかし、市長として、そして市政運営に携わることで得られる新たな機会を積極的に活用し、人々が未来の成功の一部であると感じられるようにしたいと考えています。

▼ネイサン・ガスドルフ

社会主義政党が統治機能を掌握できるというのは、ごく一般的な考え方です。ですから、政党にはそれを実行する能力がなければなりません。マムダニ政権が市政を掌握し、あらゆる日常的な決定を下し、委員を任命し、政策アジェンダを推進しなければならない状況は、行政府の統治と行政府の政策アジェンダという、まさに立法府の政策アジェンダとは大きく異なる問題を提起しています。

議会議員を選出する際は、特定の問題を選び、法案を起草することができます。その法案がうまくいくかどうかは分かりませんが、多くの場合、その過程で解決されます。一方、市政を運営する場合には、はるかに広範かつ包括的な政策課題を掲げる必要があるだけでなく、あらゆる運営上の責任も負います。

ですから、共同統治やこの内と外の概念について考える前に、理論的には、行政の中に直接踏み込んで、自分たちの目標を行政の行動にどう反映させるかを考える能力と能力のある政治組織が必要なように私には思えます。それは、ある種の先見性のある大局的なレベルだけでなく、普段は考えないような政治についてのより日常的なレベルの両方においてです。

マムダニ市長は800万人の住民を代表しなければなりません。運動の指導者数人との個人的な繋がりだけでは、到底通用しません。

ニューヨーク市には 200 以上の委員会や委員会があります。私はこの分野で専門的に働いてきましたが、おそらく 3 つも名前を挙げることはできないでしょう。こうした都市統治は非常に複雑で、それらの問題のほとんどは、抽象的には、世界的な左派にとってそれほど関心を持たれないような、ごく小さな問題に見えるかもしれませんが、しかし、民主社会主義者がニューヨーク市を率いると、彼らの政治的重要性ははるかに高まります。ですから、政治的能力、資源、人材をこれらの問題の管理に投入できる様々な方法を考えてみると、それらはすべてはるかに重要に見えてきます。それは、全体の成果にとって、はるかに中心的なものになるのです。

ですから、これは私が説明責任を想像する方法であり、私たちが常に外側から権力者に怒鳴っているということではありません。その線に沿って国家機構を管理する、こうしたかなりきめ細かい政治について本当に考えているのです。

▼ダニエル・デンバー

ネイサンは、NYC-DSA が政党のように活動しようとしていると述べましたが、これはセス・アッカーマンが 2016 年にジャコビン紙に寄稿した[影響力のある記事](#)「新党の青写真」を強く想起させます。この記事の基本的な考え方は、アメリカの左派が二大政党制の罠から抜け出すには、民主党の投票用紙に社会主義者を擁立しつつ、同時に、様々な重要な点で政党のように機能する独立した組織を構築することであるというものでした。

それは NYC-DSA が達成したこと、あるいは達成しようとしていることでしょうか？

▼スマティ・クマール

ええ、そうだと思います。2020 年にニューヨーク市 DSA の共同議長を務めていた時、私たちは最初の候補者を議会に選出しました。当時、既に議員として就任していたジュリア・サラザール上院議員もいました。しかし今、私たちはチームを結成し、既に投票用紙を無条件に活用し、予備選挙で候補者の当選を目指して活動を始めていました。

そして、あの予想外の勝利を収めた時、私たちは選挙だけで終わってはいけない、それ以上の統治が必要だと決意しました。こうして、私たちは長期的かつ現実的なものを築き上げました。政権に就いた社会主義者たちが、もしこの国に別の制度があったら政党として活動していたであろうように、協力し合うのです。彼らは協力し合い、おそらく連立政権となり、議会では少数派ながら、一丸となって物事を動かしていたでしょう。

州議会が今まさにに行っていることは、まさにこれです。そして、それはうまくいっています。富裕層への課税を勝ち取り、新たな借家人保護策や気候変動対策でも勝利を収めました。これは、議員たちが DSA の指導部と協力し、協調しているからだけではなく、党のような組織であるからこそ実現できるのです。誰もが役割を担っているのです。すべての議員が何千人もの人々と共にプロジェクトに参加し、共通の課題を共有することで、現実的な成果を生み出すことができます。もしこれが党の本質でなければ、一体何なのか私にはわかりません。

▼スマヤ・アウド

まさにその通りです。また、これは社会主義政治とは何かを人々に分かりやすく示すための私たちの真摯な方法であり、民主党の路線から外れて活動していたら実現できなかったでしょう。DSA のユニークな点は、この種の組織の中で唯一、このように、民主的な政党のように運営されている点だと思います。

過去数ヶ月間、まさにそのような状況が何度も繰り返されてきました。これは、私たちが築き上げている DSA の力の証でもあります。私たちはまだ小規模です。大きく成長し、ニューヨーク市の政治においてますます大きな役割を果たしていますが、大局的に見ると、まだかなり小規模です。

そうになると、今、権力を構築し続けるために私たちは何をすべきかという疑問が湧いてきます。ニューヨーク市 DSA のメンバーである次期市長が誕生したことは素晴らしいことですが、それが必ずしも私たちが成長し続ける、あるいはその成長が実際の権力へと変わることを意味するわけではありません。

▼ネイサン・ガスドルフ

これに付け加えて私が指摘したいのは、ニューヨーク市 DSA の選出議員の組織化において際立った特徴は、彼らが明確な方向性を持っていることです。これは、ニューヨークには実際に多くの進歩的な選出議員がいますが、他の多くの進歩的な選出議員とは対照的です。他の議員は、多様な視点が混在する傾向があると言えるでしょう。そして、全員が一元化できない時でも、それぞれが進歩的だと自認する立場を持っています。特定の共通の見解を持つという点で、他の議員と同じような組織化は見られません。

▼ダニエル・デンバー

アッカーマン・モデルは最良のモデルだと私は思いますが、政党が存在しないことに伴うすべての問題を解決するわけではありません。まず、NYC-DSA は、プロジェクトの大きな部分が民主党を、あるいは民主党を乗っ取るとは言わないまでも変革することにあるのに、どのようにして政治的独立性を維持するのかという問題があります。そして、政党のような組織である NYC-DSA は、ゾーランのような選出公職者が、組織としての DSA から独立したほどの権力と名声を持っているという現実、どのように対処するのでしょうか。

▼スマヤ・アウド

本当に複雑な問題です。ゾーラン氏の当選には、ニューヨーク市 DSA (社会保障局) の関与が大きかったことは明らかです。そして重要なのは、ニューヨーク市 DSA が大きな役割を果たした他の多くの勢力、そして労働組合や様々な地域団体、組織など、自発的に動いた他の勢力も含まれていたことです。そのリストは長くなりますが、ゾーラン氏の当選は、ニューヨーク市 DSA が大きな役割を果たした多くの勢力、そして自発的に動いた他の勢力も重要な役割を果たしました。

私たちが今、これらすべてにどう関わっていくかは、これらのグループを含む連合を継続的に拡大し、私たちが掲げた政策だけでなく長期的なビジョンの実現に向けて共に活動していく能力にかかっています。ニューヨーク市 DSA にとって、それは具体的です。それは、社会主義の力を築き、アメリカ合衆国に社会主義政党を樹立することです。他の組織はそれぞれ異なる目標を持っていますが、私たちには多くの

共通点があり、私たちが掲げる目標に向かって、できる限り共に前進することができます。そして、この道に進みたい人は誰でも参加し、参加しやすいようにしたいと思っています。

民主党という問題は、おそらく今後も自問自答し続けなければならない問題であり、答えは時とともに変化するかもしれません。セス・アッカーマン氏がその記事を書いた 2016 年以降、状況は多少変化しているでしょう。トランプ氏に投票し、その後ゾーラン氏に投票した選挙区が 30%もあったこと、そして民主党指導部が最後までゾーラン氏を支持したり、実際に発言したりしなかったという事実を考えると…

都市を運営すること自体の難しさを過大評価することはほとんど不可能です。

しかし、当選から数週間後、トランプ氏は「あなたに会いたい」と言い、ゾーラン氏は会談を行いました。私が言いたいのは、私たちの活動方法は、民主党候補と、今のところ共和党候補の両方を支持する人々に訴えかける「手頃な価格」という表現も取り入れているということです。なぜなら、それは労働者階級の人々にとって本当に重要なことに迫っているからです。そして、それが今選挙戦を戦っている多くの民主党員が、支持基盤と足並みを揃えるために何をすべきかを考える方向性を変えていると思います。

将来的には、これは民主党の変革につながるかもしれません。私たち自身の政党を持つことにつながるかもしれません。最終目標については柔軟に対応する必要があります。しかし、その過程では、手頃な価格での勝利とそれに伴うあらゆる成果を確実に獲得し、外交政策における勝利も達成していく必要があります。外交政策の勝利は軽視すべきではないと思います。

DSA は、ガザでのジェノサイドやニューヨーク市での「[Not on our Dime \(自分たちの金で賄うな\)](#)」といった問題で、[選出議員を通して様々な形でこの運動を率いてきたと思います。確かに、これらの問題で勝利したわけではありませんが](#)、DSA はニューヨーク市の政治舞台を真に変革しました。ゾーラン氏は、BDS (ボイコット、投資撤退、制裁運動) のブラックリストで知られるアンドリュー・クオモ氏と対立していましたが、公然と BDS を支持しながら勝利を収めたのです。

民主党は、様々な方法で変革を遂げつつある、あるいは変革の始まりを迎えています。問題は、より多くの人々に私たちの政治を理解し、社会主義の意味を理解してもらうにはどうすればいいのかということです。まずは党を通してそれを実現する必要があり、その後、その変革がどのようなものになるかという問題が残ります。

▼ダニエル・デンバー

民主党に対する政治的独立性の問題はどうでしょうか？そして、候補者に対する政治的権力と規律はどうでしょうか？

▼ネイサン・ガスドルフ

確かに、テクノクラートの立場で行動している者として、この質問にもう少し反論させてください。もしゾーラン氏が就任して、すべての副市長とすべての機関長を DSA のメンバーにしたいと決めたとしても、私の知る限り、文字通りそれは不可能でしょう。メンバーリストの詳細は知りませんが、そうした役職に就くのは少数で、一般的に DSA のメンバーではないと考えられています。私はよく、高い地位に就くには

専門知識と経験がどれほど必要かを過大評価してはいけないと言いますが、確かにある程度は必要です。

私はむしろその逆だと捉えています。つまり、政治的勝利が、ある意味では、政治組織の統治要求への対応能力をはるかに上回っているのです。そこで、それに追いつくために何をすべきかという問題が生じます。もちろん、動員という政治的側面もあります。それは、内部能力を構築し、行政幹部をどのように育成するかを考えるために必要なあらゆることと切り離すことはできません。これは政策の問題ですが、少し異なります。統治の骨組みを真に提供し、これらの目標のためにそこでキャリアを積むことをいとわない人々こそが、真の統治の担い手となるのです。

▼スマティ・クマール

民主党と DSA の文脈において、責任を果たし、830 万人の代表を務めることについて、もう少し詳しくお話しします。これはある意味では新しいことではありません。私たちの社会主義者である議員は皆、DSA 党員ではない人々を代表しており、多様な政治的立場を持つ多くの人々が住む多様な選挙区を代表しなければなりません。それでも、私たちは彼らを DSA との共同プロジェクトに組織化することができました。

私たちがそれを成し遂げられたのは、誰もが望むもののために闘っているからです。労働者階級の人々が望み、必要としているもののために闘い、有権者や都市に住む人々のために成果を上げることができるのです。そして、それがここで最も重要なことであり、今いる人材を確保するだけでなく、政策の実行、立法、そして統治を通して人々を政治に巻き込むことができるのです。私たちは現状に甘んじることはできません。

DSA は昨年大きく成長しましたが、今後も成長を続けなければなりません。ゾーランに投票した 100 万人の人々に働きかけ、「これはプロジェクトです。あなたも参加すべきです。DSA に参加して、政治組織に参加してみてください」と訴え続ける必要があります。全員の賛同を得ることはできませんが、これまでの組織運営や統治を通して、多くの賛同を得ることができました。今後 4 年から 8 年かけて、より一層の努力を重ね、ある程度の大衆組織化を目指していく必要があります。

▼ダニエル・デンバー

ネイサン、あなたが何度も触れているように、ゾーラン氏とマムダニ政権がきちんとやらなければならない非常に重要なことは、基本的な技術官僚的な観点から本当に良い仕事をすることです。ゴミが回収されなければ、どんなに大きな変革案も機能しません。都市の衛生状態は悪化するどころか、むしろ改善する必要があるでしょう。

では、それはどのように機能するのでしょうか？ ニューヨーク市には約 30 万人の公務員がおり、その一部は市長の意向で政治任用されています。私たちはこのことをどう考えるべきでしょうか？ 2026 年のニューヨークにおける社会主義的な行政はどのようなものになるのでしょうか？

▼ネイサン・ガスドルフ

これは素晴らしい質問です。タイムリーな質問であるだけでなく、都市運営そのものの難しさを過大評価することはほぼ不可能だからです。確かに、市職員は 30 万人います。約 50 の機関があります。しかし、これらの機関は、警察や衛生局のような非常に大規模な運営機関から、人々があまり耳にしないような様々な小規模機関まで多岐にわたります。何百もの委員会や委員会有ります。

これを管理するのは、役職に人材を任命するレベルでさえ、決して容易な仕事ではありません。そして、それを全て機能させること自体が非常に困難です。マムダニ市長にとって、そして他の市長が就任時に直面するであろう問題の一つは、重要な優先事項に取り組む前に、既に予算上の課題が内在していることです。その一部は、毎年、市議会議員の優先事項に関する予算の定期的な議論、支出の増加、そして、適切に対応したい選挙区の管理、教師の適切な契約の確保といった問題に関係しています。…そして、賃金の上昇も費用がかさむ可能性があり、他にも対策を講じたいことがあるかもしれません。彼の最初の予算では、エリック・アダムズ前市長の下で抑制されてきた学級規模の義務化の段階的導入や、ホームレス支援パウチャーの費用負担など、いくつかの政策課題が浮上するでしょう。

そのため、彼の政策とは全く関係のない既存の問題をめぐって、非常に大きな対立が生じることになるでしょう。彼は、自身の価値観と整合しつつも、都市の制約という現実世界における課題への対処方法を見つけなければならないでしょう。マムダニ氏は、公共サービスの拡充のために富裕層への課税を公約に掲げた唯一の候補者でしたが、他の進歩派は皆、それを躊躇していたことは明らかでした。彼はそれを実行し、勝利を収めました。しかし、彼の税制改革案でさえ、これらの他の課題とは少し切り離されています。既存の財政難を解消するためだけに、保育税、住宅税、その他多くの税制への増税が行われる可能性は低いでしょう。

こうしたガバナンスと財政問題への対応は、どの市長の政権でも常に頭を悩ませる課題です。問題は、いかに社会主義的であるか、あるいは可能な限り社会主義的な姿勢を保ちながら、それを実現できるか、という点にあると思います。市の予算が非常に巨額であることは否定できません。ニューヨークのような都市を運営するには、100 万人の子供たちを公立学校で教育し、公共交通機関を整備し、充実した社会福祉制度を整備することが不可欠です。同時に、これらの資金をいかに賢く使うか、そして場合によっては長期的な効率性を見出すために、能力や人員の増強に投資する必要があることを認識することも重要です。

繰り返しになりますが、どれもこれも、ありきたりなテクノクラートの言い回しに聞こえます。テクノクラート風に聞こえる言い方もありますが、実際には緊縮財政と公共部門の抑制を目指しているのです。一方で、公共部門と公共サービスの価値を真に信じ、それを実現できる言い方もあります。予算制約があり、現実的な運営上の課題に直面していることを認識すればいいのです。

▼ダニエル・デンバー

ネイサン、ゾーラン氏が既に行っているような、DSA の幹部、つまり政治に熱心な人々と、他の市長政権で働いており、うまく運営する必要がある特定の種類の部署の運営方法を明確に知っている人々の組み合わせについてはどうですか？

▼ネイサン・ガスドルフ

これまでの人事は、選挙対策本部長のエル・ビスガード＝チャーチ氏(彼女を知る人から広く尊敬され、愛されている)と、州予算の経験豊富なディーン・フレイハン氏です。フレイハン氏の人選は興味深いものでした。なぜなら、彼は予算管理の手腕を間違いなく備えているからです。そして、もう一方では——厳密には反対ですが——現政権と非常に近い存在だからです。

報道では、これはニューヨーク市と DSA (社会保障局) の候補者を選ぶ代わりになる選択肢のように受け止められましたが、フレイハン氏は「ライバル同士のチーム」のような動きではなく、自分の弱体化を図るような人物を任命したわけではありません。フレイハン氏は政策を本当に信じている人物だと私は信じています。彼はビル・デブラシオ氏の「ユニバーサル・プリク」構想を本当に信じていましたから、私には、真摯なノウハウを持つ人物を選んだように見えました。

▼スマティ・クマール

はい、私たちは良い統治を実現しなければなりません。特に前政権の 4 年間、市は機能不全に陥っていたため、人々にとって役立つ統治を実現しなければなりません。しかし、ゾーラン氏には大きな支持者がいるので、彼にはチャンスもあると考えています。多くの人々が期待を寄せており、統治の面でもそれがどのようなものか実験してみるべきだと考えています。

ゾーランが「今日はみんなで公園を掃除しよう」と呼びかければ、おそらく 200 人くらいは集まるでしょう。もしかしたら、私は実際それを過小評価しているのかもしれませんが。このプロジェクトを成功させたいという人々の熱意と関心の高さを考えると、こうしたことが状況に変化をもたらし、より興味深いことをする余地を生み出すかもしれません。

ですから、職員でなくても、人々が政府の機能に貢献できるような仕組みについても考えていきたいと思っています。これは、今回のキャンペーン全体を通して重要なテーマでした。市民社会の意識を喚起することが目的でした。都市の一員であるということは、その都市に参加し、共に都市を機能させるということです。行政のガバナンスにも、この考え方を継承していくことができます。

▼スマヤ・アワド

スマシーさんがおっしゃったことに、本当に同感です。市のために働きたいという熱意が高まっているということです。最初の 1、2 週間で 7 万件もの応募がありました。市のために働く、あるいは私たちが今生きているこの新しい時代の一員となるには、市役所で実際に働くだけでなく、組織に加わったり、後ほどお話しする「Our Time」に参加したりすることも必要だと考えるべきでしょう。

しかし、これら 2 つは、ネイサンが話していたように、私たちの街を全く新しいものへと再構築し、構築していくための、非常に具体的な方法でもあると思います。つまり、ある程度の継続性、そして決定的に重要なのは、ある程度の変化、そして大胆さと実用主義です。間違いが起こることを承知の上で、これらすべてのバランスをどう見つければいいのか？ 私たちは全く新しい世界に足を踏み入れようとしているので、間違いが起こることは覚悟しておくべきだと思います。問題は、どうやってそれらをうまく

乗り越えていくかということです。ここで言う「うまく」とは、私たちが弱体化したり分裂したりするのではなく、より強くなるための方法という意味です。

▼ダニエル・デンバー

ゾーランが制約の下で統治するであろうことはよく知られています。私が言っているのは、社会の力関係に根ざした客観的な制約、つまり矛盾を生み出す制約のことで、そして、こうした力関係と矛盾には、議論すべき層がいくつもあります。

良きマルクス主義者として、まずは政治的な力関係のバランスから始め、それからもう少し深く、生産の領域に近づいていきたいと思います。まず、トランプ氏がホワイトハウスにいます。議会は共和党が多数派を占めています。そして、オールバニでは、キャシー・ホークル知事のもと、ゾーラン氏との緊張緩和によって、ある種の緊張緩和が生まれています。これは、市議会における普遍的保育制度への期待と関係があるのかもしれませんが。

これらすべては、ゾーラン氏が活動する領域をどのように定義づけるのだろうか？ゾーラン氏と DSA が勝利した選挙であったと同時に、アダムズ氏とクオモ氏が最善の選択肢だったにもかかわらず、民主党体制があまりにも惨憺たる状態に陥り、大敗したという事実を私たちは認識しなければならない。

では、この地形を地図に描きましょう。ゾーラン、DSA、同盟の選出議員、そして民衆運動は、今後数年間、この地形をどう乗り越え、今日不可能かもしれないことが明日には可能になり、あるいは避けられないようにすることができるでしょうか。

▼スマティ・クマール

この1年間で、状況はあっという間に変化するということを学びました。2024年にニューヨーク市 DSA の代表に選出されましたが、本当に大変な時期でした。議会選挙を控え、本当に多くのことが起こっていました。ジェノサイドの蔓延や大統領選挙への絶望感もあり、人々に声をかけて戸別訪問を行い、行動を起こすよう促すのは本当に大変でした。私が育った頃は、「私たちは優勢だ。上昇軌道に乗っている」という感覚が残っていました。ところが、ある時、「ああ、もうそうではないのか？ 私たちは後退しているのだろうか？これは一つの可能性が閉ざされつつあるのだろうか？」と感じました。

▼ダニエル・デンバー

去年の整理整頓は最悪でした。

▼スマティ・クマール

ひどい状況でした。期限が切れる前に、そのことをする機会さえありませんでした。私が感じたのは、人々が「一体何の意味があるんだ？何が起きているんだ？」と感じている、集団的な不満だったと思います。何も意味を感じられず、何の進展も見られません。

1年経って今、私たちは大きく成長したと思います。大きな勢いを築き上げ、明らかに、これまで経験したことのない力へと昇り詰め、真の統治に踏み込もうとしています。100 万人がゾーランに投票し、10 万人が戸別訪問を行いました。状況は常に変化しています。

州や市の予算に 10 億ドル規模の問題が発生した場合、それは非常に現実的な問題です。誰かがそれを問題だと言うのは、新自由主義の神話のようなものではありません。

はい、州知事は穏健派です。市議会議長も穏健派のようですが、ゾーラン氏に投票した人が 100 万人もいます。アメリカには 1 億 1700 万人の有権者がいると見たので、117 人に 1 人がゾーラン氏に投票したことになります。多くの人が彼に投票し、多くの人が何か違うものを望んでいます。知事や多くの既成政治家がこれに反応しているのを私たちは見てきました。どんな政治的立場であろうと、政治家であれば投票の持つ真の力を理解しているはずです。そして、選挙が重要であり、人々の行動様式を変えるということを私たちは目の当たりにしていると思います。

つまり現状は、世界中の政治家が「おやおや、こんなことは予想外だ。これは初めてのことだ。何らかの形で対応すべきだ。融通を利かせるべきだ」という状況です。ジュリー・メニン(ニューヨーク市議会議長)でさえ、融通を利かせ、政権と協力したいという姿勢を見せています。

しかし、今 100 万人が抱いている希望は、束の間のもんです。それは今まさに存在する感情です。そして、その希望が消えてしまわないように、そして勝利へと導き、実際に実現させ、そしてその希望を育むために、私たち全員の責任です。人々が引き続き関わり続けられるように、そして私たちが州議会選挙で示した選挙の力、そしてこれから行われる市議会選挙、そして将来行われるであろう選挙の力、そしてそれを基盤として、真の多数派を築き上げていくために、希望を現実のものにしていくために。

▼ダニエル・デンバー
ネイサン？

▼ネイサン・ガスドルフ

まず、クオモとアダムスについてですが…私は社会主義的な良き統治について話していましたが、*社会主義的な統治*など忘れてしまっても構いません。今回の選挙には皮肉な点があります。ゾーラン・マムダニ氏が、ニューヨーク市にとって良き統治の唯一のチャンスだったかもしれないのです。アダムズ氏の任期、そしてクオモ氏が民主党候補になったことは、ある意味で資本の合理的な自己利益を反映した候補者を擁立するという、いわばニューヨーク市特有の能力をビジネス界が持ち合わせていないことを示しています。…国家レベルで言えば、資本は国家に厳密に対抗すべきであり、ある種の無秩序な混沌の中で生きた方がましだと言えるかもしれません。説得力があるかどうかは分かりませんが、おそらくそう主張できるでしょう。

ニューヨーク市ではそれは通用しません。あらゆるものを運営できるだけの相当な予算がなければ、都市は成り立ちません。ですから、ビジネス界が、物事を効果的に運営できる人物をすぐに見つけることができなかったという事実、私は衝撃を受けました。

矛盾がマムダニの政策をどう制限するのか、という話です。通常、税金や予算に関する話になると、たいていは悪い知らせを伝えざるを得ません。しかし最近、私はその逆の立場に立っています。まず、マムダニの提案はどれもそれほど突飛なものではない、というのが出発点です。これは、ほとんどの国に存在するごく基本的な社会保障を賄うために少しでも増税をするのは、革命的で不可能に思える、新自由主義の奇妙な後遺症のようなものだったと思います。まさに、そうなる運命にあるのです。DSA 2021の「富裕層への課税」キャンペーンは、アンドリュー・フオモ知事の下で成功し、年間 100 万ドル以上の収入がある人への増税を行いました。そして、何も悪いことは起こりませんでした。

こうした政治政策に関する議論では、しばしば資本ストライキの問題が取り上げられます。税制政策の観点から言えば、税の世界ではこのような事例は極めて稀です。労働問題における資本ストライキには、企業が労働組合結成を阻止するためだけに自らに経済的損害を与えることをいとわず、工場を閉鎖して利益を失うという、ある種の論理性があります。一方、税金に関しては、資本ストライキはより合理的な行動に見える傾向があります。つまり、企業がまだ利益を上げている限り、より高い税金を支払うということです。他の場所に移転したり、事業を移転したりすることでより多くの利益を得られるのであれば、そうするでしょう。

しかし、これは彼らの金儲けの方法とほぼ一致しています。ニューヨーク州とニューヨーク市の経済は非常に大きく、依然として堅調であるため、ゾーラン氏が自身の政策の財源として提案しているわずかな増税については、経済的な懸念は全くありません。言い換えれば、これらすべては実行可能であり、どれもパラダイムシフトや挑発的なものではなく、既存の力関係を壊滅的な形で覆すような事態を引き起こすほどのものではありません。

当然のことながら、知事の承認を得る必要があるため、実現には政治的な課題がいくつか存在します。しかし、州や市の政治の枠組みの中では、それらは実現可能だと私は考えています。それらは、実現を阻むような構造的な要因ではありません。

より深い構造的なレベルでの潜在的な真の制約は、ドナルド・トランプ氏が、市長に就任するハンサムで好感の持てる人物について考えを変えた場合、連邦政府による取り締まりのリスクに関係しています。これらは大きな問題ではないと考える理由ですが、連邦政府が本気で州と市に対して財政的な戦争を仕掛けたいのであれば、深刻な問題となる可能性があります。もちろん、移民関税執行局 (ICE) の問題は深刻な問題であり、対処しなければならない現実的な脅威が存在します。しかし、この政策の核心は非常に健全で、実際にはかなり実現可能だと私は考えています。

▼ダニエル・デンバー

ある意味では、ゾーランと NYC-DSA は明らかに根本的な共通の政治プロジェクトを共有しているものの、権力基盤を持つ左派と運動における左派の戦略的方向性は、運動と選出された有権者の立場によって必然的に乖離する可能性がある。例えば、ゾーランにとっては、政策目標を可能な限り円滑に達成するために、ホークルと効果的に協力することが望ましいかもしれない。しかし、NYC-DSA にとっては、下

から大衆の主体性を構築することが中心的な目標となる可能性が高い。ここで重要なのは、こうした戦略的相違について道徳的な議論をすることではなく、どのように考えるべきかを探求することである。

こうした戦略的な矛盾が今後生じ得る場合、どのようにアプローチし、それらの矛盾点を最大限に調和させていくべきでしょうか？ スマシーさん、ニューヨークにおける大衆組織の現状はどうなっているのでしょうか？ ゴーラン氏はどのようなことを可能にするのでしょうか？ 具体的には、数万人、あるいは数十万人のニューヨーク市民を動かすような行動を起こすために、政権はどのような行動をとることができるのでしょうか？

▼スマティ・クマール

これが最もエキサイティングな部分です。大衆組織化の現状について言えば、まだ道のりは長いです。今、何千人もの人々が「行動を起こす準備はできている！」と言っているのを目にしていると思いますが、これはまだ新しいことです。ですから、大衆基盤を求めるすべての組織にとって大きな課題は、どうすればそれを実現できるかという問いに取り組む必要があると思います。行動を起こす準備ができ、行動を起こしたいと思っている人々がいます。今、私たちは彼らを掴み、巻き込み、組織化し、より多くのことを求める必要があります。

ゴーランが大衆組織を拡大するために何ができるかという点については、本当にワクワクしています。私が最もよく理解し、最も考えているのは、入居者運動に関することです。これはまさに、行政ができることが非常に多く、それを実現させるには、各ビルで組織化を進めている何千人もの入居者との連携が不可欠であるという好例です。

例えば、修繕が実際に行われているかを確認するための法規制の施行などです。ゴーラン氏は、自らが主張してきた政策課題、つまり積極的な法規制の施行を強化し、家主から罰金を実際に徴収するといったことを実行できます。しかし、そうすることで、現場の建物に住む何千人もの入居者が組織化し、その恩恵を受けることができるのです。

そして、さらに一步進んで考えてみましょう。今ニューヨーク市では、家主が何十年も人々の家を賭け続けてきた結果、建物が差し押さえられ始めています。それは、家主が誤った賭けに出て危険な事業判断を下し、そのツケを払っているからです。もし私たちがこれらの建物で組織化を行い、差し押さえられようとしている建物の入居者も組織化して、「いや、ここは最高額の入札者に売られる必要はない」と訴えれば…市政府で築き上げてきた力を使って、市が建物を差し押さえたり、入居者が建物を差し押さえられるような手続きを市が促進したりできるのです。

これは非常に喜ばしいことです。なぜなら、この取り組みは行政だけの責任ではないからです。入居者自身が率先して行う必要があるのです。そして、これこそが大衆組織、つまり大衆入居者組織の役割です。「組織化しよう」と声を上げるのです。私たちは市レベルでこの力を築き上げてきましたが、今度は建物内や市全体で組織化し、その力を最大限に活用し、あらゆる手段を使って、私たちが本当に望んでいること、つまり住宅の商品化を解消し、入居者が自らの住宅を管理できるようにし、住みやすく手頃な価

格の住宅を実現することを実現する必要があります。そして、これは市当局だけでなく、協力して取り組むことで、根本から実現できるのです。

私が考えていたもう一つのことは、あまり具体的ではなく、ややこしいのですが、ゾーラン氏が州議会議員時代にやったことの一つは、[「Not on Our Dime」](#)（自分たちの金でやるな）運動を導入したことです。有権者の一部の反応を呼んだことの一つは、ほとんどの人が怖がって声を上げられなかったことについて、彼が声を上げることができたこと、そして彼が今までずっとその姿勢を貫いてきたことです。そして今、少なくとも左派のパレスチナ運動や市内のイスラム地区では、こんな疑問が飛び交っていると思います。「ゾーラン氏が市長になった今、パレスチナ問題やパレスチナ組織化の問題について、何が起こると予想できるだろうか？」

混乱していますね。しかし、彼が既に主張を表明している点もあり、今後さらに期待できると思います。例えば、抗議活動があった時の対応、ニューヨーク市警の対応をどう誘導し、舵取りするかといった基本的な点です。春と秋に大学が再開した際に、野営地周辺のキャンパスで何か動きがあれば、どうなるか興味深いところです。それから、（パレスチナ運動を）レトリックの両面で支援し、可能であれば「Not On Our Dime（私たちの資金で賄うな）」やイスラエル国債からの（投資撤退）といった政策も推進していくでしょう。一部は彼の管轄外ですが、レトリックの力は確かにあります。

▼ダニエル・デンバー

スマヤさん、先ほどゾーラン氏が自身の政策を推進するために設立した組織[「アワー・タイム」](#)についてお話をしましたね。この組織には、市内で最も才能豊かな社会主義活動家たちが集まっています。

しかし、その役割とは何でしょうか？何をすべきでしょうか？その目的は、NYC-DSA の役割や目的とどのように異なるのでしょうか？最後に、選挙後の他の組織を悩ませてきた問題を、どのように回避できるのでしょうか？特に、バラク・オバマの Organizing for America とバーニー・サンダースの Our Revolution の 2 つが思い浮かびます。

▼スマヤ・アワド

Our Time について考える最良の方法は、キャンペーンとしてではなく、もしかしたら独立した組織になるかもしれませんが、手頃な価格の住宅購入に関する課題を推進し、それを勝ち取ることを目的としたキャンペーンとして考えることです。そして重要なのは、それが市政の一部ではないということです。独立した組織であり、ニューヨーク市 DSA でもありません。もちろん、その背後にいる人々という点では多くの重複がありますが。

これは、ゾーラン氏の選挙運動にボランティアとして参加した数万人の人々を呼び込み、選挙後、ゾーラン氏が勝利した後に彼らに直接連絡できる手段を提供するための手段として考案されました。そうすることで、その基盤を失わず、10 万 4000 人の支持者を失うことがありません。10 万 4000 人というのはかなりの人数です。これは、おそらくすべての支持団体を合わせた人数よりも多く、デシス・ライジング・アップ・アンド・ムービング (DRUM)、ニューヨーク市 DSA、ユダヤ人平和の声 (JVP) などの会員数よりも多くなります。

ニューヨーク市警察と敵対的な対立関係にある市長がいることは、実は私たち左派にとって何の利益にもなりません。いかなる形であれ、私たちにとって何の利益にもなりません。

アワー・タイムの最初の電話会議には 700 人が参加しました。チャットには「DSA って何？」といったコメントが数多くありました。これは、キャンペーンに動員され参加したにもかかわらず、DSA のこと、そして参加できるこの組織についてまだ知らない人が非常に多いことを示しています。ですから、アワー・タイムは、そうした人々をすぐに呼び込み、導き、手頃な価格の課題解決のための闘いに導いていくために非常に重要だと考えています。この勢いを維持するために、今週の日曜日には「すべての人に保育を」という大規模な戸別訪問が既に行われています。彼らが最終的に組織に参加してくれることを願っています。なぜなら、一度組織化すれば、私たちははるかに強くなり、より多くのことができるようになるからです。

ですから、これはそうした人々を呼び込み、他の組織にも紹介し、参加させ、動員するための手段なのです。そして、こうして私たちは、今夜話し合ったすべてのことを前進させるために、体制側に圧力をかけることができるのです。

これは、ゾーラン氏が一人の人間であり、私たちが一つの運動を構築していることを改めて示す重要な点でもあります。彼は確かにその一部であり、重要な役割を担っています。しかし、私たちの真の力は、彼に投票した 100 万人の人々が、単に政治に関心を持つだけでなく、動員され、組織化されていることにあります。だからこそ、今年の選挙期間中、ニューヨーク市 DSA で展開している様々なキャンペーンで勝利することができ、ゾーラン氏が再選される 4 年後、そして 8 年後にも勝利を収めることができるのです。そしてその後は、どんなプロジェクトであれ、私たちがそのプロジェクトをどこに進めるべきかを決めるのです。

▼スマティ・クマール

付け加えておきますが、ランディングページのようなものが必要な人もいます。初めて政治に関わる人がたくさんいます。彼らは政治について何も知らず、ただ住宅価格の手頃さという課題を達成したいだけなのです。つまり、家賃を凍結したいだけなのです。

▼ダニエル・デンバー

彼らは資本論の勉強会に一度も参加したことがない。信じられない。

▼スマティ・クマール

素晴らしいですね。「家賃を凍結したい。運動に参加すべきだ」という人が何千何万人もいるはずです。「ああ、家賃凍結を主張している社会主義者もいるんだ！」私もその一人になるべきかもしれません。もしかしたら、それが私の政治方針なのかもしれません。ですから、もし私たちがコンテナを作れるなら、Our Time はキャンペーンのコンテナとなり、こうした新しい人たちを長年の社会主義者や活動家の隣に配置して、長期的な運動に導いていくことができるのです。

▼ダニエル・デンバー

ゾーラン氏とトランプ氏の会談は、明らかにかなりセンセーショナルな出来事だった。社会主義左派や主流メディアの多くは、会談自体がゾーラン氏の大きな勝利だと解釈したと思う。左派の一部からは、そもそも会談に臨んだこと自体がゾーラン氏の信条を裏切ったと非難されたにもかかわらずだ。

私にとって最も重要な成果は、ゾーラン氏が少なくとも一時的にニューヨークの社会主義プロジェクトに息抜きを与え、政権発足初日に連邦政府による占拠や移民税関捜査局 (ICE) の大規模な増派 (幸運を祈る) が起こる可能性を下げたことだろう。しかしもちろん、トランプ氏が有利と感じれば、すぐに翻意する可能性も覚悟しておくべきだ。

ネイサンさん、ゾーラン氏がトランプ氏とのこの奇妙な関係の中でこれまで成し遂げてきたことをどのように評価しますか？そして、今後数年間、並外れた権威主義の脅威に直面しながら、ニューヨーク市とこの地の社会主義プロジェクトを守るためには、どのような長期的な戦略が必要になるのでしょうか？

▼ネイサン・ガスドルフ

まず最初に言っておきたいのは、あの会談は私が予想していた通りの展開だったということです。大統領はきっと喜んでくれるだろうと思っていましたし、州や市の予算に関心のある人にとっては、それは大きな安堵でした。

外部からの脅威 (もちろん ICE は存在しますが、連邦政府による市制施行のような劇的な事態も考えられます) を心配する前に、最も差し迫った脅威は予算であり、その規模を解明する価値があるので、ほっとしました。市の予算は州の予算よりも影響を受けにくくなっています。市は年間約 70 億ドルの連邦資金を受け取っています。ニューヨーク市住宅局 (NYCHA) のセクション 8 にも連邦政府から資金が流れていますが、これは 1150 億ドルのうち約 70 億ドルです。教育、その他の住宅、一部の社会福祉サービスが、一般的に主要な構成要素です。

原則として、これを変えるには議会の立法が必要です。これらの規則は現在、事実上無視されている状態にあるため、潜在的な圧力が実際に存在します。そして、連邦財政政策や州・市レベルの財政赤字についてどのような見解をお持ちかに関わらず、州や市は実際には税収で得た資金しか支出できないということを忘れないでください。州や市には資金不足を補うために積立金を活用する余地はありますが、税収と支出の間には密接な関係があります。ですから、州や市の予算に 10 億ドル規模の問題が発生した場合、それは非常に現実的な問題です。誰かがそれを問題だと言っても、それは新自由主義の神話のような話ではありません。

大きな問題は州レベルで発生しており、トランプ大統領の大統領令の話ではありません。議会が昨年夏に可決した減税法案、「ビッグ・ビューティフル・ビル」、あるいは私が「OBBA」と呼んでいる減税法案です。これは大規模な減税法案です。この意味では、これはトランプ大統領や MAGA 特有の視点を反映しているというよりも、共和党が数十年にわたって公約してきた減税政策の新たな展開に過ぎません。

まず、今後 10 年間で 4 兆 5000 億ドルの減税が実施されます。そのうち約 12 億ドルは、メディケイドと補足栄養支援プログラム (SNAP) の削減に充てられます。ニューヨーク州にとって、その影響は非常に深刻

です。減税は基本的に中間選挙後に段階的に導入されますが、全面的に導入されると、50 万人から 100 万人のニューヨーク州民が健康保険を失う可能性があります。これは、主に医療制度に充てられていた州政府の歳入が数十億ドル減少することを意味します。

州は既に大きな財政的圧力にさらされています。つまり、新たな問題を心配する前に、市と新市長政権の役割は、州がこれらの財政課題に対処し、その負担を市に押し付けないようにすることです。

これは、メディケイドのような非常に重要な制度が崩壊するのを防ぐという、ニューヨーク市民全員の利益にも合致する部分があります。ニューヨークでは、メディケイドは 2000 万人のうち約 800 万人に医療保険を提供しています。繰り返しますが、誰もがこの制度の健全性を確保することに関心を持っていますが、それがニューヨーク市にとって最大のリスクなのです。

そして、連邦政府による更なる歳出抑制や財政攻撃が加われれば、深刻な官僚的課題が生じ、市政の最も重要な部分全てに圧力がかかります。つまり、市長が日常業務を円滑に運営する能力が損なわれることになります。しかも、その上に新たな政策アジェンダを推し進める可能性が出てくる前の話です。

▼ダニエル・デムバー

スマシーさんとスマヤさん、この市と連邦政府の関係についてどうお考えですか？連邦政府による占拠や ICE (移民税関捜査局) の増員の可能性について、より具体的に掘り下げて考えてみましょう。そのようなシナリオでは、ニューヨークの街頭における大規模な抵抗はどのようなものになるでしょうか？そして、その抵抗はグレイシー・マンションを起点とした抵抗とどのように相互作用するべきでしょうか？

▼スマティ・クマール

ゾーランの役割は、左派の私たちが運動組織において果たす役割とは異なるでしょう。占拠は、私たちの近所や公共の場、あらゆる場所で、大衆の抵抗に遭遇し、これが受け入れられないことを示す必要があると思います。

今こそ、そのための準備を始めなければならないと思います。そのための最も重要な方法の一つは、近隣住民と組織を結成し、非常に緊密で真の地域組織スペースを築くことです。そうすることで、人々は連帯感を持ち、立ち上がって ICE 職員とニューヨークの移民の間に立ち向かうことができるようになります。そのためには、生まれ持ったものではなく、日々の連帯と組織化の活動を通してしか築くことができない、ある種の勇気と抵抗が必要です。

抵抗勢力を築く最も大きな方法の一つは、家主や上司といった共通の敵に対して組織化することです。今私たちが行っている組織化は、将来より大きな抵抗への道を切り開くことができるのです。

ゾーラン氏の役割は今回の状況では異なるものになると思いますが、私たち全員がすべきことは、ニューヨークへの誇りを呼び起こすことです。この選挙運動は、様々な形でその誇りを育んできました。ゾーラン氏の選挙運動は、ニューヨーク市への、そしてこの街の活気と特別さを形作るものへのラブレターでした。左派の人々だけでなく、多くの人々の共感を呼んだと思います。連邦政府の侵略に直面しても、

私たちはこの精神を揺るぎなく持ち続け、「ここは私たちの故郷だ。私たちはここで起こることに発言権を持つ人間だ」と訴え、真に大衆的な抵抗を起こさなければなりません。

▼スマヤ・アウド

彼女の発言には全て同意します。街を活性化させるキャンペーンの最も素晴らしい点の一つは、毎週のように活動していた人々が、再び活動始める準備ができていることです。だからこそ、「Our Time」は重要なのです。ニューヨーク市 DSA の他のキャンペーン、選挙活動やその他の活動も継続していくことが非常に重要です。なぜなら、もし街が乗っ取られた場合、私たちは乗っ取りに対抗するために、これらすべてを再活性化させることができるからです。また、私たちは既にそうしてきましたが、この問題に対処してきた、あるいは対処している他の都市と連絡を取り合い、どのような戦略が有効で、何が無効で、何が最も効果的で、どのように運営されているかなどを検討することは非常に重要です。

▼ネイサン・ガスドルフ

もう一つ、ゾーラン氏とトランプ氏の会談の内容に関してですが、私はずっと興味深く感じてきました。彼は自身の政策の政治的側面について明らかに容赦がない一方で、この手頃な価格の政策が誰の税金も引き上げたり、誰かを怒らせたりする必要がないなどと決して偽ることなく、その普遍的な魅力を非常にうまく伝えることができたのです。これは非常に興味深い点だと思います。

▼スマヤ・アウド

エルもその会合に出席していたことを強調しておきますが、おそらく彼女の才気と、エルとゾーランと一緒にあってトランプ氏を魅了したことが、この会合に何らかの関係があったと思います。

▼ダニエル・デンバー

彼は「あそこには素晴らしい選挙対策責任者がいるね」と言った。

街頭での無秩序な大衆抵抗は、非常に望ましいことではあるが、同時に、マムダニ市長がニューヨーク市政府の巨大な抑圧機構、すなわちニューヨーク市警察 (NYPD) と矯正局を掌握しているという、重大な矛盾を間違いなく悪化させる可能性もある。ニューヨーク市の刑務所国家、そしてアメリカ合衆国全体の刑務所国家が何をしているかは、誰もが知っている。それは、新自由主義都市において最も抑圧され、権利を奪われた人々に対する人種差別的な支配を、そしてなぜ、どのようにして、そしてなぜ、どのように機能するのか、そしてまた、社会に残酷な物質的条件が生み出す紛れもない無秩序と暴力の中で秩序を押し付けているのか、ということである。

つまり、刑務所国家は制度的な力として存在しているということです。しかし、刑務所国家は、特に警察組合を通じて、政治力としても機能しています。そして重要なのは、刑務所国家は社会的な力、つまり強力な国民多数派とも結びついているということです。その中には、社会主義左派が獲得すべき非常に重要な支持層も含まれます。彼らは、特定の脱刑務所政策に好意的であったり、実際に好意的であったりするかもしれないが、警察は公共の安全にとって不可欠だと強く信じている人々です。

スマヤさん、これらの深刻な矛盾をどのように評価しますか。また、ゾーランがこれらに対処するために、たとえ不完全であったとしても、最善の方法は何でしょうか。

▼スマヤ・アワド

これは本当に良い質問で、少なくとも Twitter では激しい議論が交わされています。まずは、遠回しにせず、ジェシカ・ティッシュ(NYPD) 本部長の留任決定についてお話ししたいと思います。これは誰もが抱いている疑問だと思うので、ティッシュ氏は本当にひどい人物で、抗議活動への弾圧や NYPD のキャンパスへの派遣など、様々なことを支持してきたと言えるでしょう。

重要なのは、左派である私たちの役割は、ニューヨーク市警の顔は誰であるべきか、誰が本部長であるべきかといった議論をすることではありません。私たちが考えるべきもっと重要なことは、ニューヨーク市警にどのような変化を期待し、ニューヨーク市民全体、もちろん抗議活動者や学生など、そして一般のニューヨーク市民にもどのように対応し、どのような役割を果たすのか、ということです。

ダンがおっしゃったことはまさにその通りです。ニューヨーク市民のほとんど、あるいは全員が、何らかの理由で警察を重要視しています。私たちは、それが何を意味するのか、そして多くのニューヨーク市民にとって安全とは何を意味するのかを真剣に考えなければなりません。ゾーラン氏が提案したコミュニティ安全に関する提案や、コミュニティ安全委員会などの役割は、この点において非常に興味深いと思います。しかし、誰がその顔で誰が責任者なのかといった細部にとらわれすぎず、政策の詳細、私たちが何を变えたいのか、そしてどのようにそれを実現できるのかに焦点を当てるべきだと思います。

ゾーラン市長がティッシュ氏を留任させたのは戦略的な判断だったという点も忘れてはなりません。この点については賛否両論あるでしょう。しかし、ゾーラン市長が過去のニューヨーク市警の運営方法を変えること、そして市長在任中に変更するいくつかの点について話し合い、そしてその点について話し合いを行ったことも重要でした。これは記者会見でも述べられていました。これは決して隠蔽されたものではありません。

例えば、最も重要な点の一つとして挙げられたのは、戦略対応グループ(SRG)が、抗議活動や大学キャンパスなどに対してどのように活用されてきたか、そしてそれが今後どのように変化していくかです。ティッシュ氏の留任決定について議論される際、この点はしばしば議論から漏れているように思います。先ほど申し上げたことをもう一度繰り返しますが、特に今後 1、2 年の間に、彼の政権下でも私たちの運動の中でも、後になって「もしかしたら最善の決断ではなかったかもしれない」と思えるようなことが数多く起こるでしょう。しかし、それはそれで構いません。なぜなら、これは全て新しいことであり、私たちは間違いを犯すからです。

しかし、今戦略的に重要なのは、どのように前進していくかということです。ニューヨーク市警察と市長の新たな関係に何を期待するのでしょうか？

最後に言いたいのは、ニューヨーク市警と敵対的な対立関係にある市長がいることは、私たち左派にとって実際には何の利益にもならないということです。それはいかなる形でも私たちにとって何の利益に

もなりません。だからといって、ニューヨーク市警と親友になれると期待しているわけではありません。しかし、私たちは何を築き上げようとしているのかを考える必要があると思います。ゾーラン氏と新政権が、私たちが望むすべてを前進させるために、そして時には多少異なる目標を持つであろう私たちの運動が、最も生産的で効果的、そして大胆でありながら現実的な方法で活動できるように、私たちはどのように最善の立場を確保できるのでしょうか。

▼スマティ・クマール

ゾーラン氏は 830 万人を統治しなければならないこと、そして現在、ニューヨークの多くの人々、大多数の人々が警察問題に関して私たちと同じ立場に立っていないことを考えると、私にとって興味深いのは、ゾーラン氏が訴えてきたコミュニティ安全局をいかに実現させるかということです。そして、現在の刑務所制度に代わる機能的な代替手段として、私たちがどのような要求を掲げるべきか。統治を通じて、ニューヨークの多くの人々を脱刑務所化政策に近づけることができると私は考えています。

自分がニューヨーク市民だと想像してみてください。近くで誰かが精神的な危機に陥っています。コミュニティ安全局に電話すると、局は実際に対応し、問題に対処してくれます。双方に安心感を与え、状況が解決したと感じさせます。この経験は、私たちがこれまでに行ったこと以上に、人々を刑務所廃止の政治に近づけるでしょう。そして、代替案を構築することで、何万人もの規模で同じことを実現できます。そして、この運動は、ニューヨーク市警の改革、そして今まさにその組織が行っている暴力行為を変えることに對して、私たちがさらに大きな要求をするための余地を生み出すでしょう。

ジェシカ・ティッシュに関して言えば、私たちはどの戦いを選ぶかについて、本当に慎重に考えなければならないと思います。どの戦いを、どの順番で戦うか。これから何千もの戦いが繰り広げられるでしょう。私たちは、以前よりも強くなって、ニューヨーク市民からの支持をより多く得て、そして今起きている他のあらゆる出来事の文脈の中で戦いを選ぶことができるような戦いを選びたいのです。

今、私たちは連邦政府が市に介入する可能性が高いことを承知の上で、政権交代に臨もうとしています。何らかの理由で、ジェシカ・ティッシュ氏の留任がビジネス界の最大の要求となっていることは承知の上です。これは彼らにとって多少の譲歩であり、興味深い点だと思います。「なぜ今、この闘いをするのか？なぜ、こうした状況の中で？」という疑問が湧きます。もし彼女が行政や市長を貶め、ゾーラン氏の指示に従わなくなったら、状況は変わってくるでしょう。それは、市民、つまり国民にとって、この状況がうまくいっていないという正当化となるでしょう。

最後に言いたいのは、ほとんどの人は警察長官が誰なのかなど気にしていないということです。国民は人事争いなど気にしていません。関心があるのは問題なのです。ですから、もし私たちが大衆を動かしたいのであれば、そして 830 万人の市民を束ねる市長を動かしたいのであれば、常にそうすべきだと思いますが、個人や名前ではなく、人々が感じ、大切にできる事柄、そして彼らの人生に関わる事柄をめぐる争いを選ぶべきです。

真の成功とは、この議題を通過させることです。そうすれば、誰もが「よし、これは可能だ。夢物語ではない」と言うでしょう。

▼ネイサン・ガスドルフ

先ほど、世界規模、国内規模、そして政権外における力関係についてお話されましたが、政権内部、この複雑な官僚機構においても同様です。つまり、警察長官だけでなく、3万5000人の警察官、そしてニューヨーク市警にも複雑な官僚機構が存在します。政府官僚機構のどの部門に対しても、大規模な争いを挑むことは効果的な戦略とは言えません。それは、自らを妨害する良い方法です。

しかし、たとえそうするとしても、かなり慎重かつ戦略的に行う必要があります。そして、そこには必ずある種の合理的な順序があり、どこから始めるべきかというものがあります。正直なところ、現政権が目指すものを考えると、警察との大規模な抗争を先導しないことは、市の官僚機構の他の部分にも浸透していくための、かなり健全で戦略的な方法と言えるでしょう。また、行政にあまり馴染みのない彼らが、行政の仕組みを理解するための時間的余裕を作ることに繋がるでしょう。

▼ダニエル・デンバー

私たちは生産の領域に近づいているが、実際にはそこに入ることができない。上部構造に閉じ込められているのだ。しかし、ニューヨークは金融資本の首都であるため、グローバル資本主義の首都である。そして先ほど述べたように、資本家階級はゾーランの勝利の可能性に集団的に崩壊し、それを阻止するために空想的なほど巨額の資金を費やした。

これはニューヨークに限ったことではありません。資本と国家の力関係を巧みに操るのです。ラテンアメリカの歴史を見れば、実に印象的な形でこのことが見て取れます。そして、ニューヨークの歴史にも目を向けてみましょう。1970年代の財政危機において、金融の力こそが、この地に新自由主義を押し付ける上で重要な力となったのです。

ネイサンさん、これらの矛盾は今日のニューヨークで具体的にどのように現れているのでしょうか？そして、内部のゾーラン陣営と外部の社会主義運動は、どのようにそれらを乗り越えていくべきでしょうか？

▼ネイサン・ガスドルフ

いくつかの異なる側面があります。一方では、まさに「二都物語」のような状況で、非常に裕福な人々がたくさんいます。ここで私が言っているのは、ほんの一握りの億万長者ではなく、高収入の専門職の上位1~2%のことです。法律事務所のパートナーや不動産投資のパートナーなど、年間100万ドル程度の収入がある5万~8万人の人たちです。彼らは多額の税金を納めており、市や州の支出をかなり高額にしています。

つまり、他の多くの歴史的・国家的背景とは異なり、社会福祉制度の拡充や、私たちが課税を通じて実現したいと考えているようなことを、実際に大きく進める余地があるということです。そして、経済の基礎は十分に健全であるため、大きなリスクを負うことなく、かなりの距離を進むことができると考えています。

当然のことながら、それらに依存することには政治的なデメリットが数多くあります。それをある程度予測する必要がありますが、長期的なリスクです。

一方で、多くの人がこの政権に期待していることの一つは、リナ・カーン氏が移行共同議長の一人に加わったことに大きく表れているように、より自由闊達で大局的な規制アジェンダの策定です。これは従来、市政の領域とは考えられていませんでした。

原則として、そうしなければならない理由はありません。もし規制権限がすべて連邦レベルにあるなら、連邦政府が国家経済を規制するのは理にかなっています。しかし、もし連邦政府が何もしないのであれば、なぜ市の権限を使わないのでしょうか？

他にも公的選択肢のような提案が検討される可能性があります。例えば、健康保険に関するものかもしれません。今のところ、何か提案されているという話は聞いていませんが、これは必ず発生する問題です。いずれ誰かが、「健康保険の公的選択肢はどうだろう？」と言うでしょう。健康保険以外の保険…現在、不動産保険は非常に高額で、家賃が安定している家主にとっても、そうでない家主にとっても問題になっています。ですから、不動産保険だけの公的選択肢が検討される可能性もあるでしょう。

こうした提案は、おそらくビジネス界にとって深刻な挑発行為と映るでしょう。行き過ぎた権限行使、自由市場と資本の弱体化だと非難されるでしょう。だからこそ、深刻な政治的論争が巻き起こり、政権の政策を見通す能力が試されることになるはずです。より包括的で独創的な政策オプションが提示されれば、ビジネス界からの根強い反対に再び直面することになり、外部からの真剣な働きかけが必要になるでしょう。

▼スマティ・クマール

もう一つ付け加えたいのは、金融セクターやビジネスクラスが支援を撤回したり、市から撤退したりした場合、1970年代には人々が立ち上がり、その空白を埋めようとしたということです。テナントが建物を引き継ぎ、一世代で最大規模の資産移転が起きました。ですから、私たちがここですべきことは、人々が組織化して空白を埋められるようにすること、そして撤退に直面しても私たちの議題を支持率の高いものにし、より多くのことを要求し続けられるようにすることだと思います。

ですから、皆さんの質問への答えは、多くの人々を組織化する必要があるということです。金融セクターの場合でも、人々が何が起きても適応できるように組織化する必要があります。そして、何が起きているのか、誰が責任を負っているのかという世論を、ビジネスクラスや支援を撤回している人々に向け続ける必要があります。そして、それを政治的な力に変え、事態を緩和し、再発を阻止できるようにする必要があります。

▼ネイサン・ガスドルフ

財政危機について一つ言えるのは、奇妙なことに、これが左派と右派にとっての基準点になっているということです。左派は物事を歴史的に捉えたがる傾向があるからです。そのため、財政危機が今日の状況をどう定義づけているのか、という感覚が常に存在します。右派は、常に財政危機を持ち出します。な

ぜなら、彼らはいつも、私たちはまた財政危機に陥りそうだ、市の支出が多すぎて大惨事だ、と主張したがるからです。

ですから、私たちは新たな財政危機に瀕しているわけではない、ということも重要です。現状とは全くかけ離れています。

1970年代、市は税収で賄えない経常経費を賄うために多額の借金をしていました。どう考えるかはさておき、通常の予算編成の観点からすれば、これは深刻な問題でした。現在、市は黒字を計上しています。市は、この地域に住む多くの富裕層や高い不動産価格から多額の税収を得て、それを教師の給与、ホームレスシェルターの資金、警察の給与、その他数え切れないほどの費用に充てています。

したがって、それがあらゆる予算討論の亡霊となっていることは、実際のところ本当の問題であり、私たちの妨げとなっているのです。

▼ダニエル・デンバー

皆さんもよくご存知の通り、全米の左派、私のような地方に住む人々、そして世界中の人々にとって、ニューヨークでのこのプロジェクトの成功は大きな意味を持っています。そして同時に、ニューヨークはニューヨークという枠を超えた、はるかに大きな何かの大きな部分を担っています。ロードアイランド州プロビデンスでは、社会主義者の若き州議会議員デビッド・モラレス氏が、来年の民主党予備選で、不動産業界に傾倒する新自由主義のプロビデンス市長に挑戦しています。

この極めて危険な瞬間を抜け出すために国を根本的に変革することを提案する、はるかに大規模な左翼覇権主義プロジェクトの主要な柱として、このニューヨークの巨大なプロジェクトを前進させることをどのようにお考えですか？

▼スマティ・クマール

私たちは政策を実行しなければなりません。マムダニ氏が掲げた3つの選挙公約、すなわち家賃凍結、バスの高速化と無料化、そして普遍的な保育サービスの実現を実現しなければなりません。なぜなら、そうすることで、社会主義的な統治が実際に意味を持ち、人々の生活をより良くすることを人々に示すことができるからです。そして、全国の何千人、何百万人もの人々に同じ行動を起こさせ、都市部だけでなく、この国全体の労働者階級の人々のために権力を握ることができるのです。

▼ネイサン・ガスドルフ

行政府の統治戦略を持つことの意味、そしてそれが人事面で何を意味するのか、どのように人材を育成するのか、誰を政権に迎え入れ、そして政権内で誰を育成するのかを考えてみてください。政府運営における小さな政策課題はすべて、大きな政治課題へと発展します。ですから、政策課題は達成しなければなりません、同時に失敗してはならないこともたくさんあります。そして、難しい選択を迫られ、正直言って失敗しても構わないことをすることもあつてしょう。そして、それに適切な方法で政治的意味を持たせなければなりません。そして、政権内に適切な人材がいれば、それははるかにうまくいきます。しかし、人材育成は決して容易なことではありません。

▼スマヤ・アウド

どちらの意見にも賛成です。この政策を実行することは特に重要だと思います。なぜなら、すでに全国でゾーラン氏と非常によく似た戦略で選挙活動を行っている人が非常に多く、素晴らしいことですし、その多くが当選することを願っています。しかし、真の成功は、この政策を通過させることです。そうすれば、他の誰もが「よし、可能だ。夢物語ではない。実際に可能だ。私たちはこれを実現できる。勝利できる」と言えるでしょう。彼らがニューヨークで勝利したのなら、都市の大小に関わらず、ここでも勝利できるのです。率直に言って、今、世界中の多くの国が私たちに注目しています。